

32. ‘2012’

洋上を航海していると自然の力が如何に偉大であるかを思い知らされます。ところが陸上での普通の生活では科学の力に取り囲まれ、その便利さに何の不安もなく頼りきっております。そして科学の力が自然をコントロール出来るものとする傲慢さが芽生えているのも事実でしょう。

ところが2009年11月、ハリウッド映画「2012」が封切られ、その宣伝もあるのでしょうが、マスメディアも‘2012’を採りあげて盛んに宣伝しており、人々の関心も集まりだして‘地球の終末論’がまた活気を帯びてきたようです。またと言うのは1999年のノストラダムスの大予言があって世紀末論があり、この時も1973年11月 五島勉著「ノストラダムスの大予言」が刊行され、3ヵ月で100万部売れたという信じられないようなミリオンセラーになり、その後も売れ続いたという凄まじい人気だったのです。

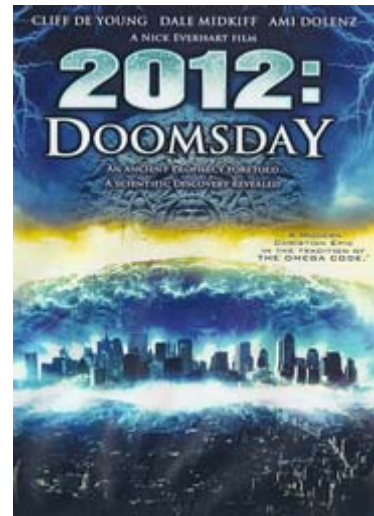
また翌年の1974年8月には、東宝で映画化され「ノストラダムスの大予言」のタイトルで公開、大ヒットしています。霊能力者と自称していた丹波哲朗主演でした。

その前年1973年には同じ東宝で「日本沈没」を公開、小松左京原作のSF小説、映画とも空前の大ヒットでした。

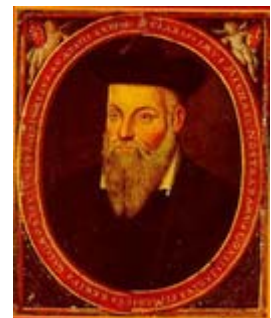
ノストラダムスに戻りますと、フランス人のノストラダムス（1503～1566）医師、占星術師、予言者、詩人という多才な人で、そのうちの一つに予言をするような詩と絵がありますが、これをノストラダムスの研究者である著者が独自の解釈を加えて書いたのが「ノストラダムスの大予言」で、世紀末と地球終末論が重なって関心を惹起したのでしょうか。どの程度本気にしていたかわかりませんが結構話題になっていたことは事実です。ただし、ノストラダムスの予言詩には「人類は滅亡する」とは全く書いてありません。それを著者が「人類は滅亡する」と書き加えたため余計話題になったことは事実でしょう。ですから他の研究者からは著者に対する非難が集中したみたいです。絵の方もどうにでも解釈できるような絵であって後世の人達が重大事件と結びつけて終末を煽っているだけです。

もうひとつ「富士山大爆発・運命の1983年9月X日」というタイトルの本が出版されたのを覚えていますか？

この時もTVで採りあげられ大分関心を集めました。さらに関心が集まったのは、「もし爆発しなかったらオレの腹を切る」と著者のハラ



①



②



③

キリ問答があったことで火が付いたような騒ぎになりました。

この著者相良正俊氏（中 11 回）は大先輩です。気象技術官養成所（現気象大学校）を経て東京理科大学卒業後、気象庁の前身である中央気象台の気象技官として長らく勤務し、戦時中は海軍の気象部隊に気象技官として派遣されあの有名な“キスカ撤収作戦”を陰で支えた功労者です。

この作戦の概要を述べますと、
ハワイ真珠湾攻撃のあとの第二次
作戦としてミッドウェー攻撃が計
画され（AF・AO 作戦）、AF はミ
ッドウェーを意味し、AO はアリ



④

ューシャンです。昭和 17 年 6 月 2 日同時二方面攻撃作戦を開始、ミッドウェー沖海戦は四隻の正規空母を失い完敗したのはご存じの通りですが、アリューシャン作戦はアッツ島とキスカ島を無血占領、防備のない島に上陸したのですから当然ですが、この二島はアメリカの領土でしたから太平洋戦争を通して我が軍が占領したアメリカ領土はこの二島だけです。しかし永くは続かず昭和 18 年 5 月 30 日圧倒的な 1 万 1 千名のアメリカ軍がアッツ島に上陸、守備部隊長山崎大佐以下 2,650 名が玉砕。

北米から日本への復航は大圏コースなのでベーリング海を航行しアッツ島沖から太平洋へ出ます。ですから私はアッツ島の近くを航過する際には毎航海必ず極寒の島に眠る山崎部隊長以下 2,650 柱の英霊に対し冥福を祈っておりました。

其の列島であるキスカ島にも陸海軍併せて 5,639 名の将兵がおりましたが、補給は不可能なので大本営は放棄することを決め、部隊の撤収作戦（ケ号作戦）が発令されたのです。ところが海、空域は完全にアメリカ軍の掌中にあり、潜水艦 14 隻で隠密裏に撤収しようとしたのですが、潜水艦の収容人員が少なく 872 名を収容したところで、レーダー照準の砲撃を受け、2 隻を失って中止となりました。

2 期は木村昌福少将を司令とする旗艦 軽巡「阿武隈」随伴艦 軽巡「木曾」駆逐艦 11 隻他海防艦総計 16 隻からなる艦隊を編成、千島列島の最東北端幌筵島に集結、救出の機会を伺っていたのです。近くのダッチハーバーにはアメリカ軍が誇る B25 戦略爆撃機の基地があり、また近くのアダック島にも前進基地として飛行場があり、キスカ島は連日爆撃を受けていたのです。ですから空からの攻撃を回避するためには濃霧が発生し、3 日位続かないと救出作戦が執れないのです。1 回目、2 回目島に近づいたのですが、霧が晴れてしまい途中で引き返しております。

3 回目が空振りになると燃料が底をつき補給に内地に戻らなければならない、そうすると濃霧発生が季節が過ぎてしまい、救出作戦は断念しなければならぬ絶体絶命の瀬戸際になったわけで、相楽さんが所属する気象観測隊の責任は重大です。

この時オホーツク海に発生した低気圧が発達しながら東進をはじめ、此を注視していた観測隊はアリューシャン列島に濃霧が発生、持続すると予報を出し、木村司令が出撃を発令、占守島で仮泊していた艦隊はキスカ島へ向かって抜錨。7 月 29 日 敵包囲網に接近、30 日 濃霧の中キスカ島の海岸線ギリギリのところを航行して目的の錨地に入って 7 月 31 日収容開始、翌 8 月 1 日には離脱しており

ます。この海岸線を航行したのはレーダーの映像を攪乱するためで、当時のレーダーの性能では艦影と島が重なると識別が困難になりレーダー照準射撃が出来なくなるからです。しかしこれは杞憂でした。キスカ島を嚴重に包囲していたアメリカ艦隊は7月26日 日本艦隊接近との報に濃霧の中レーダー照準で徹底的に砲撃、しかしこれは完全な誤報で、レーダーに映ったのは多分多重反射のエコーだったと推測しますが、レーダーの誤作動としてよくあることです。米海軍は幻の日本艦隊に向かって砲弾を撃ち尽くしてしまい、補給のため島の包囲を7月28日一時解き、基地へ戻ってしまったのですからまさに1日違いの天佑でした。これで全くの妨害を受けず1兵残らず5,183名の救出に成功したのです。ただし濃霧の中の艦隊行動でしたので接触や衝突の損傷がありましたが、レーダーのないわが海軍艦艇の操艦技術の練度は素晴らしいものがあります。

キスカ島撤収作戦とガダルカナル島撤収作戦は完璧に成功した作戦でした。この撤収作戦に全く気付かなかった米軍は8月15日34,000名の大部隊が無人の島に上陸作戦を敢行、霧の中同士撃ちで100名以上の戦死傷者を出しています。

この事実は昭和40年6月 東宝で映画化され三船敏郎・山村聡出演の「太平洋奇跡の作戦 キスカ」の題名で上映されヒットしたみたいです。

さて相楽さんは気象庁退職後は商社の気象予報のコンサルタントに就任、これは穀物相場やその他世界の気象の長期予報は不可欠な要素で商社にとって重要な役目です。



⑤

更には気象予報の会社を設立され、数々の著書を刊行「危機迫る首都圏大地震」「身近な前兆で大地震は予知できる」等々、元東京支部長で同窓会新聞第4号3面に記載されている猪狩浩氏と相楽さんは同窓会のよしみで個人的にも付き合っており猪狩氏の自宅で私もおめにかかったことがあり、著書を頂いております。話題も豊富で火山活動に関するウンチクや人生論まで大分伝授させてもらいました。

富士山大爆発は勿論ありませんでしたが、タイトルと同じ1983年9月三宅島の雄山が大爆発し、全島民が避難したのはご記憶にあると思います。富士箱根火山帯に連なる伊豆七島ですから、何らかの兆候があったのかも知れませんが、当時気象庁は富士山爆発に関しては打ち消しに懸命でした。腹切りの件は実行するわけがありませんが、まもなく病魔に冒され逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

さて2012の地球終末論ですが、2012年人類滅亡説、マヤ文明において用いられている暦の一つの長期暦が2012年12月21日～23日頃に一つの区切りを迎えるとされることから連想された終末論で、失われたマヤ文明が突如現代に蘇ってきた感じです。

映画「2012」の設定は太陽ニュートリノが変化し地球のコアを過熱して、その熱で緩んだ地殻が一気に崩壊をはじめ、僅か3日で地表の全てが海中に没するという設定で、そこには地震、火山噴火、地割れ、大津波とあらゆる災害が世界中で発生し、それを克明にCG技術で映像化しており手に汗を

握るシーンの連続です。その対策として密かに建造を進めていたのが‘ノアの箱船’よろしく中国山中、多分チベットの山中と思われる地下で大津波に耐えられる巨大な潜水艦を連想させる船舶を建造し、世界のVIPや乗船券を買い求めることができた富豪が乗船できる設定、犬二匹を連れたエリザベス女王やそれらしき人物がチラッと見えたり、動物を積んだりでノアの箱船の発想そのままです。

なにしろヒマラヤ山脈を呑み込むような大津波ですから、日本は最初に海没、反対にアフリカプレート南端が隆起するという設定でノアの箱船船団はそこを目指すというところで‘The End’何故か中国賛美の映画の印象でした。もう一つ純粹のハリウッド映画で主演は勿論白人、ですが地球の異変を最初に気づくのはインドの科学者、それをアメリカへ伝えるのもカラードの科学者、大統領もカラード、最期に世界を救うのは中国というこれまでのハリウッド映画にはなかった流れの変化を感じます。

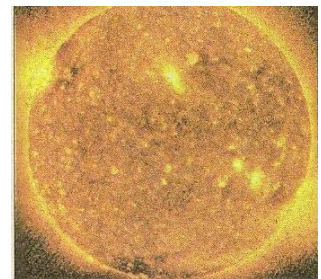
この映画の中で津波と言う言葉が何度かでてきますが、‘ツナミ’と日本語の発音をしており、日本語が国際語になったもので、英語もTsunamiというスペル、世界中が用語としてツナミを使用しております。

余談ですが、この‘2012’の映画のDVDを中国経由で手に入れ鑑賞していた北朝鮮の住民が当局に密告され何故か重罪の刑に処せられたそうです。(3月25日の朝刊)

さて映画はあくまでもSFの世界ですが、現実の2012年はどうでしょうか？これが太陽活動が極大化する年で、太陽フレアが放出するエネルギーが地球磁場を混乱させ、強力な電流によって高圧変圧器が故障し、電力網に多大な障害を与え、最悪の場合広範囲な停電が余儀なくされる事故が起きる可能性があります。

これには前例があり1989年の極大期に激しい磁気嵐が発生しカナダのケベック州の電力システムを破壊し9時間に及ぶ停電で約600万人に影響がありました。

地球大気と海洋は太陽放射を原動力として循環することによって生命体を育てているのですが、太陽の表面にフレアなどの現象が観測されると、短時間内に地球の北極か南極の上空に活発なオーロラが現れたり、磁気嵐によって電波の伝播に障害が起きます。これは太陽から高エネルギーの電子やイオンが太陽風となって飛来し、地球超高層大気が乱れを起こすため、太陽活動の変化が気候変動や磁場の変動による電離層に影響をうけ短波が使用不能になったり、前述した電力網が被害を受けるようなことがあります。



⑥

太陽活動が極大化すると述べましたが、太陽活動には周期があり、その原因は太陽黒点数の増減です。太陽表面の明るい中にある暗い斑点を黒点と言い、その数が太陽黒点数です。その黒点数がほとんどゼロの時期もあり、多い時期には150個程度に達する時期もあり、平均11.1年で増減を繰り返し、さらに大きく変動するのは80～90年周期があります。個々の黒点の平均寿命は数日か



⑦

ら数ヶ月ですが、この黒点上空で太陽表面の炎のような現象が表われるのが太陽フレアで、これがソーラーウィンド（太陽風）となって飛来します。風と言っても空気はありませんから、電子やイオンの高エネルギーの流れで、これが地球磁場を混乱させてしまうのです。

それでは2012年の11年周期には何らかの影響があるのか心配ですが、11年周期以外にもう一つほぼ100年周期で太陽活動が増減を繰り返すというのがあります。つい最近の2010、3月18日 国立天文台の発表によると太陽表面の磁場が観測史上最低レベルを記録し、この現象は太陽活動が弱まる直前の特徴だとし、太陽はまもなく「冬眠」に入るとしていますが、地球の気候への影響はどの程度のものなのか、日射量が0.1%程度で影響は少ないとみられますが、ところが太陽の磁場が弱まると、宇宙線量が15%程増えるらしい。

太陽の磁場は、太陽系以外から降り注ぐ宇宙線から地球を守っていますから活動低下によって太陽磁場が弱まり、宇宙線が増える関係です。この宇宙線には雲を作る効果があり、宇宙線が増えると太陽光が反射されて地球が冷えるとする、雲が出来ると逆に放射冷却が出来なくなり温暖化すると相反する研究が発表され、専門家の間でも意見が分かれています。ただ今年の冬は世界的に見て異常でした。北米では大寒波が何度も南下し、ワシントンやニューヨークがある東海岸の大都市は100年ぶり的大雪で被害があり、欧州でも大寒波のようでした。我が国でも首都圏に珍しく降雪が数度あり、日本海側でも例年よりも大雪にみまわれました。ところが北極圏は温暖化が進んでおり、地球全体的に異常と観測されるのでしょうか。

難しい理論はこの程度にして、人類がどんなに頑張っても自然を克服する力はないのですから、如何に自然の中で共存できるかを考えなければなりません。それにはまず自然に親しみを覚えることです。

大先輩（中11回卒）相良正俊氏 著書集 （この外にも多数の著書があります）

① 富士山大爆発 運命の1983年9月X日



富士山大爆発

- ② 危機迫る首都圏大地震
- ③ 身近な前兆で大地震は予知できる
(3冊 政経通信社)
- ④ カウントダウン 首都圏大地震 (出帆新社)
- ⑤ 第二次関東大震災間近し (政経新社)
- ⑥ 機近し富士山大爆発 (データハウス社)
- ⑦ 199X年気象・経済大異変 (広済堂)
- ⑧ 気象大異変 (広済堂)



写真

- ① 映画‘2012’マヤ文明で用いられていた暦の一つの長期暦が2012年12月12日から12月23日頃に一つの区切りを迎えるとされることから連想された終末論であってオカルト的な発想です。
‘ノストラダムスの大予言’に続く終末論ですが確かな根拠はありません。ただ学術的にはマヤ人の宗教観や未来観を知るうえでは意味があります。但し2012年は太陽活動の極大期になるので太陽風の発生はあるかも知れません。
- ② ノストラダムス（1502—1566）フランス人、ルネッサンス期の医師、星占術師、詩人、料理研究家等多彩な才能の人で、「ノストラダムス師の予言集」として四行詩による予言ですが、非常に難解であって、後世の研究者が様々な解釈が為されております。我が国で出版された「ノストラダムスの大予言」は信奉者である著者が独自に解釈したものであって、一個人の解釈に過ぎません。
- ③ 相良正俊さんの著書の一つですが、一番話題になった本です。
- ④ アッツ島、日付は不詳ですが四月下旬で未だ寒い日でした。北米からの復航は北米沿岸に沿って北上し、アラスカ半島とダッチハーバーの間の海峡からベーリング海に入って西行し、アッツ島の西端を抜けて千島列島に沿って南下します。これが大圏コースで最短の距離になります。
☆右は同じ位置からのショットです。この付近は6月になると濃霧となり、船橋の直ぐ前に巨大なマストとクレーンがありますが、全く見えなくなります。まっ白な世界でウイングで見張りをを行う（他船の霧笛を聞き取る為）ときは雨衣を着用しますが、それでも下着までグッショリです。更に危険なのはかつては母船式鮭鱒漁の最盛期は6月で刺し網漁でしたから漁船と刺し網を避ながらの航行は大変でした。
- ⑤ 東宝映画‘キスカ’撤退作戦を映画化したもので三船敏郎、山村聡、佐藤允、久保明 等でした昭和40年6月封切り。
- ⑥ 2010年3月2日 観測衛星ひのでが撮影したものです。昨年末から今年にかけて太陽に久しぶりに現れた黒点で、表面の爆発現象‘フレア’も観測されました。この数年、100～200年ぶりの弱さを記録していましたが、太陽活動は、回復の兆しが見えてきました。この活動再開によって、直近の太陽活動の周期が確定し、約12年7ヶ月の周期は普段より1年半長い、周期が延びるのは、太陽が冬眠の時期に入る前の特徴とされています。



- ⑦ 太陽フレアの活動により太陽風（ソーラーウィンドー）は電子流ですが、地球の磁場に悪影響があります。

